顕　彰　状

歌舞伎俳優六世中村歌右衛門丈は、1917 年 1 月 20 日、大正から昭和初期の歌舞伎界の頭目五世歌右衛門の次男として、歌舞伎界を生きる運命の生を受け、1922 年 6 歳で坪内逍遙作「鉢かづき姫」の里の子で初舞台。16 歳の時兄が没したため、六世中村福助を襲名。このころから、大劇場における先輩と同座しての修行の一方で、もっぱら東京新宿の新歌舞伎座を拠点として「青年歌舞伎」を組織して活動。1940 年父の没後は、昭和初期の名優として六代目尾上菊五郎と並称される初代中村吉右衛門に師事、その薫陶を受け、女形としてとくに古典歌舞伎の正統な継承者としての王道を歩み、翌 1941 年六世中村芝翫を襲名して名跡中村歌右衛門家の継承者としての地歩も占めたのである。

1951 年、34 歳で六世中村歌右衛門を襲名。ここから名実ともに歌舞伎界の旗手としての活躍が始まる。75 歳を過ぎるころから舞台出演が少くなったが、歌右衛門襲名後の 40 年間には数多くの名舞台がある。「籠釣瓶花街酔醒」の八ツ橋、「京鹿子娘道成寺」の花子、「助六由縁江戸桜」の揚巻、「壇浦兜軍記」の阿古屋、「本朝廿四孝」の八重垣姫、それに「沓手鳥孤城落月」の淀の方などは、他の追随を許さぬものとして万人の眼に焼き付いている。上の古典歌舞伎として伝承されたもののみに限らず、「阿国御前化粧鏡」や「日本振袖始」の如き埋もれた作品の復活にも意欲的であり、「鰯売恋曳網」や「建礼門院」などの新作歌舞伎にも挑戦して新境地を開拓した。さらに海外公演にも積極的に参加し、歌舞伎が国際的に高く評価される素地を作ったのである。

かかる功績に対する顕彰も数多いので、代表的なものに限って記すと以下のようなものが挙げられよう。芸術選奨文部大臣賞（1948 年 31 歳）、日本芸術院賞（1962 年 45 歳）、日本芸術院会員（1964 年 47 歳）、重要無形文化財保持者（俗称、人間国宝、1968 年 51 歳）、文化功労者（1972 年 55 歳）、NHK 放送文化賞（1974 年 57 歳）、文化勲章（1979 年 62 歳）、坪内逍遙大賞（1994 年 77 歳）、高松宮殿下記念世界文化賞（1995 年 78 歳）、勲一等瑞宝章（1996 年 79 歳）。ちなみに勲一等の現役受章は歌舞伎俳優として初めてのことである。

かかる一代の名優と早稲田大学との関係であるが、坪内逍遙の歌舞伎作品は、父五世歌右衛門によって、ことごとく初演されたといってよい。六世歌右衛門が家の芸として逍遙作品を上演したことはいうまでもない。六世の言としての「演劇博物館と歌右衛門の家とは切っても切れぬ縁がある」とは、逍遙と五世歌右衛門によって培われたものであり、その遺品が演劇博物館に収められたことに端を発し、今や六世中村歌右衛門記念室を設けて歌右衛門代々の遺品のみならず、現六世歌右衛門の所蔵品の展示室ともなった。そのために完全な設備がほどこされ、演劇博物館の名品類の展示も可能となったのである。

以上のことに鑑み、早稲田大学は、戦後の日本演劇界を代表する不世出の名優に対して、名誉賛助員、推薦校友にすでに推挙したのであるが、ここに、早稲田大学芸術功労者として永くその栄誉を顕彰するものである。

２０００年２月２４日

早　稲　田　大　学